

串間市文化財調査報告書 第4集

奈留地区遺跡

村上遺跡発掘調査概要報告書

県営農地開発事業奈留地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1991・3

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市では、昭和58年度に開始された県営農地開発事業（仲別府団地長野団地）に伴い事業地内に所在する遺跡の発掘調査を実施しております。

この中で、本年度は村上遺跡の発掘調査を行ない、本報告書を刊行することになりました。

串間市教育委員会では、市内に点在する古代からの多くの遺跡・文化財を保護、調査することを現代人としての責務ととらえ取り組んでおります。

本報告書もその成果の一部であり、これらの記録を広く文化財保護及び学術研究の資料として活用していただければ幸いに存じます。

尚、発掘調査を実施するにあたり御協力いただいた宮崎県文化課、南那珂農林振興局、奈留土地改良区、各関係機関をはじめ地元市民の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成3年3月

串間市教育委員会

教育長 武 田 久 文

例 言

1. 本書は、宮崎県串間市奈留地区における県営農地開発事業(長野団地)に伴い、平成2年度に実施した村上遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は串間市教育委員会が主体となり、同主事 宮田浩二の担当、県文化課主査 面高哲郎の調査指導で実施した。
3. 調査組織は以下の通りである。

調査主体	串間市教育委員会
教 育 長	武 田 久 文
社会教育課長	松 本 松 文
文 化 係 長	野 下 賢 良
調 査 担 当	宮 田 浩 二
調 査 指 導	面 高 哲 郎 (県文化課主査)

4. 本書の執筆、編集は宮田が担当した。
5. 本書中の方位は磁北である。

本文目次

第Ⅰ章 序 説	1
1. 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 村上遺跡の調査	2
1. 調査の概要	2
2. 層 序	2
3. 縄文時代早期の遺構	4
4. 縄文時代早期の遺物	4
5. ま と め	9

挿 図 目 次

I - 1 遺跡位置図	1
II - 1 基本層序模式図	2
II - 2 遺跡概要航空写真	3
II - 3 遺構写真及び実測図	5
II - 4 遺物拓本	6
II - 5 遺物及び出土状況写真	7~8

第I章 序 説

1. 発掘調査に至る経緯

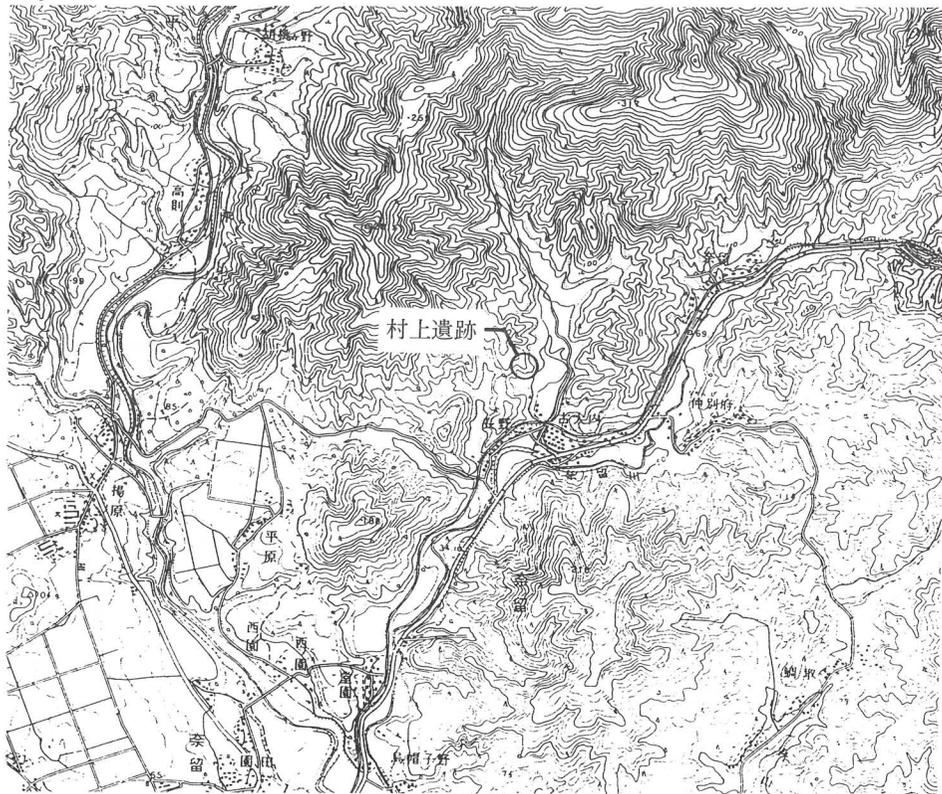
宮崎県串間市において、昭和58年度から奈留地区（仲別府団地、長野団地）で南那珂農林振興局が実施する県営農地開発事業が行なわれている。

それに先だち、事業区内において、昭和57年度に分布調査、昭和58年度及び昭和60年度に試掘調査を串間市教育委員会と宮崎県文化課により実施し、その調査により事業区内に10ヶ所の遺跡の所在が確認されたため、南那珂農林振興局、奈留土地改良区、県文化課及び市教育委員会で埋蔵文化財について協議を行ない、事業施工上現状保存が困難な部分について記録保存の措置をとることとなった。

昭和61年度は猪之椋遺跡（長野団地）を発掘調査し、昭和63年度及び平成元年度には開尾遺跡（長野団地）・留ヶ宇戸遺跡（仲別府団地）の発掘調査を実施し記録保存を図ってきたところである。

奈留地区事業区内の発掘調査は今回で4年目であり、県営農地開発事業の進捗状況により今後も調査を行なっていく予定である。

この調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二の担当、県文化課主査面高哲郎の調査指導で平成2年6月15日から平成3年3月25日まで行なわれた。



I - 1 遺跡位置図

第Ⅱ章 村上遺跡の調査

1. 調査の概要

村上遺跡では、調査対象地区（3,300㎡）のうち、東側の地点をA地点、西側の地点をB地点（標高約68m）とし、さらにA・B地点と比高差約7mの北西部上段をC地点として調査を実施した。

3地点とも、縄文時代早期の遺物包含層が調査の中心となったが、A・B地点の包含層が割と良好に残存しているのに対し、C地点は削平を受けていたため、トレンチ掘りによる確認調査を行なったところ包含層がほとんど削減しており、その結果、遺構は検出されず、遺物の出土もほとんど見られなかった。

調査対象地区は、調査前は雑林であり、ほぼ平坦な地形をしていたが、旧地形は3地点とも南にむかうかなりの急斜面であり、且つ、A地点とB地点の間には地層のうねりが見られ、結果として、遺構数、遺物数は共に少なかった。

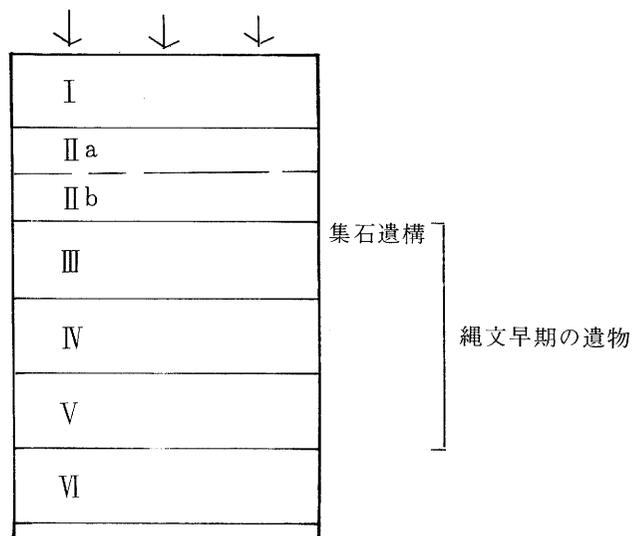
2. 層序

今回の調査の基本層序は、Ⅰ層・表土、Ⅱa層・「アカホヤ」火山灰層、Ⅱb層・「アカホヤ」（粘性でⅡa層よりも暗い）、Ⅲ層・褐色土、Ⅳ層・黒色土、Ⅴ層黒褐色土（硬質でオレンジバミスが混入する）、Ⅵ層・明褐色土、までを確認し、その下層は礫層となる。

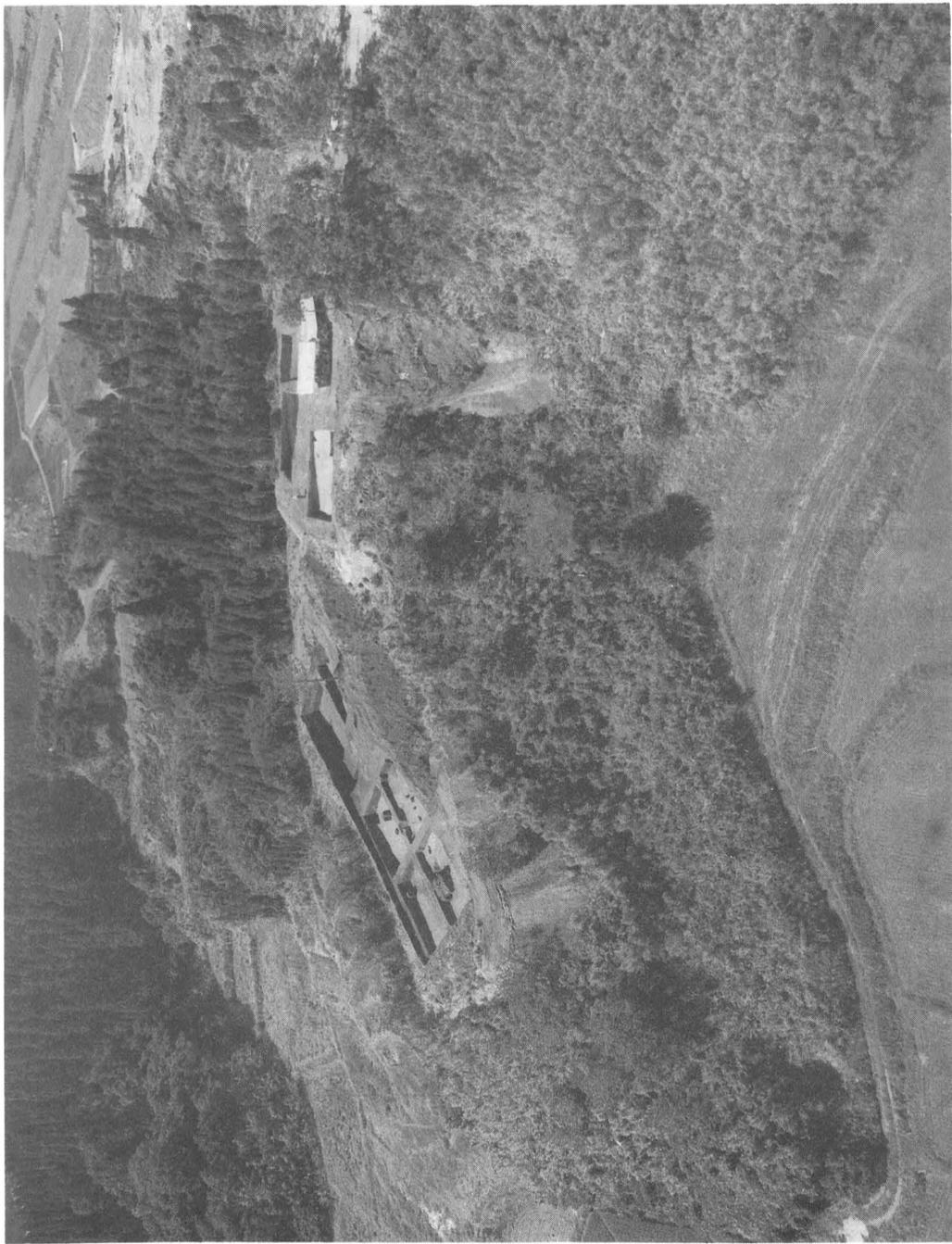
この内、遺物包含層はⅢ・Ⅳ層及びⅥ層表面で、縄文時代早期の遺物が含まれる。

A地点（特に1区・3区）ではⅣ層以下が消滅しており、Ⅲ層の下位が直接礫層となっていたためⅢ層の調査が中心となった。また同地点ではⅡb層からも若干の遺物の出土を見た。

B地点では、遺物包含層は割と良好に残存しており、特に遺物は6区で多く出土した。



Ⅱ - 1 基本層序模式図



II - 2 遺跡概要航空写真

3. 縄文時代早期の遺構

Ⅲ層・褐色土及びⅣ層・黒色土で検出された遺構は集石遺構が4基であった。

集石1号は、1区のアカホヤ直下から検出され、径約2, 5mの範囲内に散石の見られる中の、若干礫の集中した部分を集石とした。礫(散石を含む)は加熱を受けたものと思われ、赤く変色しているものが多い。集石は掘り込みを持たず、上述同様の礫で構築されており、礫には亀裂、又は表面の剝離が見られた。また、散石中からは土器片や黒曜石小片も数点出土している。

集石2号(次頁図面)は、アカホヤ直下から検出され、赤く変色した礫で構築されているが、1号同様、掘り込みは持たない。

集石3号は、3区・4区間のベルト中から検出され、礫は平面的に構成されていたが、若干の掘り込みを持ち、集石中央部の土には加熱によるものと思われる変色が見られた。

集石4号は、4区で検出され2号と同様の状況であった。

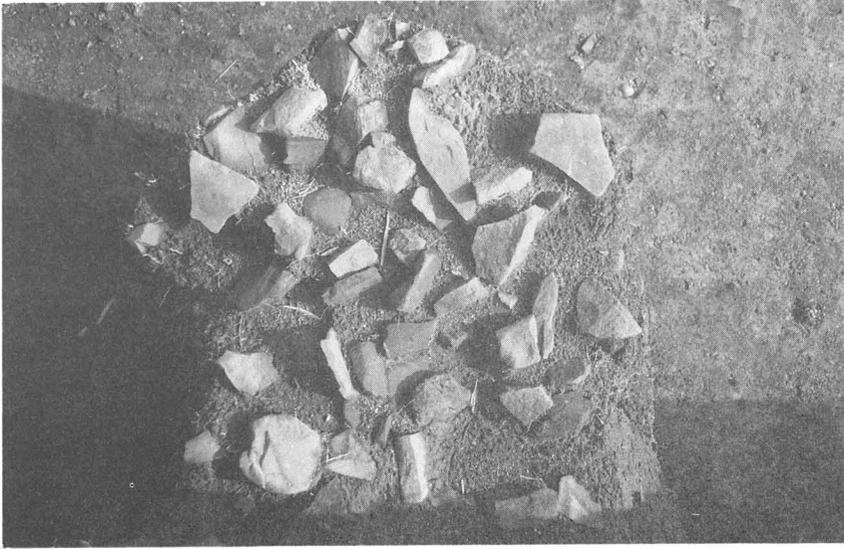
なお、6区のⅥ層底部では、集石5号が検出されたが、礫の変色は明確ではなく掘り込みも持たないものであった。

4. 縄文時代早期の遺物

遺物は量的にはさほど多くはなかったが、その中心は土器片で、中でも口唇部に刻目を持ち、それ以下には横位か斜位に貝殻条痕を施す前平式系の土器片(次頁56, 7)が最も多く、これ以外では、撚糸文を縦に施した塞ノ神式土器(1)が小片ではあるが2点出土したほか、貝殻文系の土器や胴部にほぼ等間隔を保ちながら3本の沈線を施すもの(3)なども出土した。

また、口縁部を失っていたものの、厚手で円筒形の深鉢が、押し潰され割れたような状態で出土している。

石器類では、Ⅲ層表面でチャート系の石鏃が1点出土したほか、スリ石や使用痕の見られる大型で偏平な石等がある。また、黒曜石は小片ではあるが多く出土し、石材不明の剝片の部分的な集中出土も見られた。

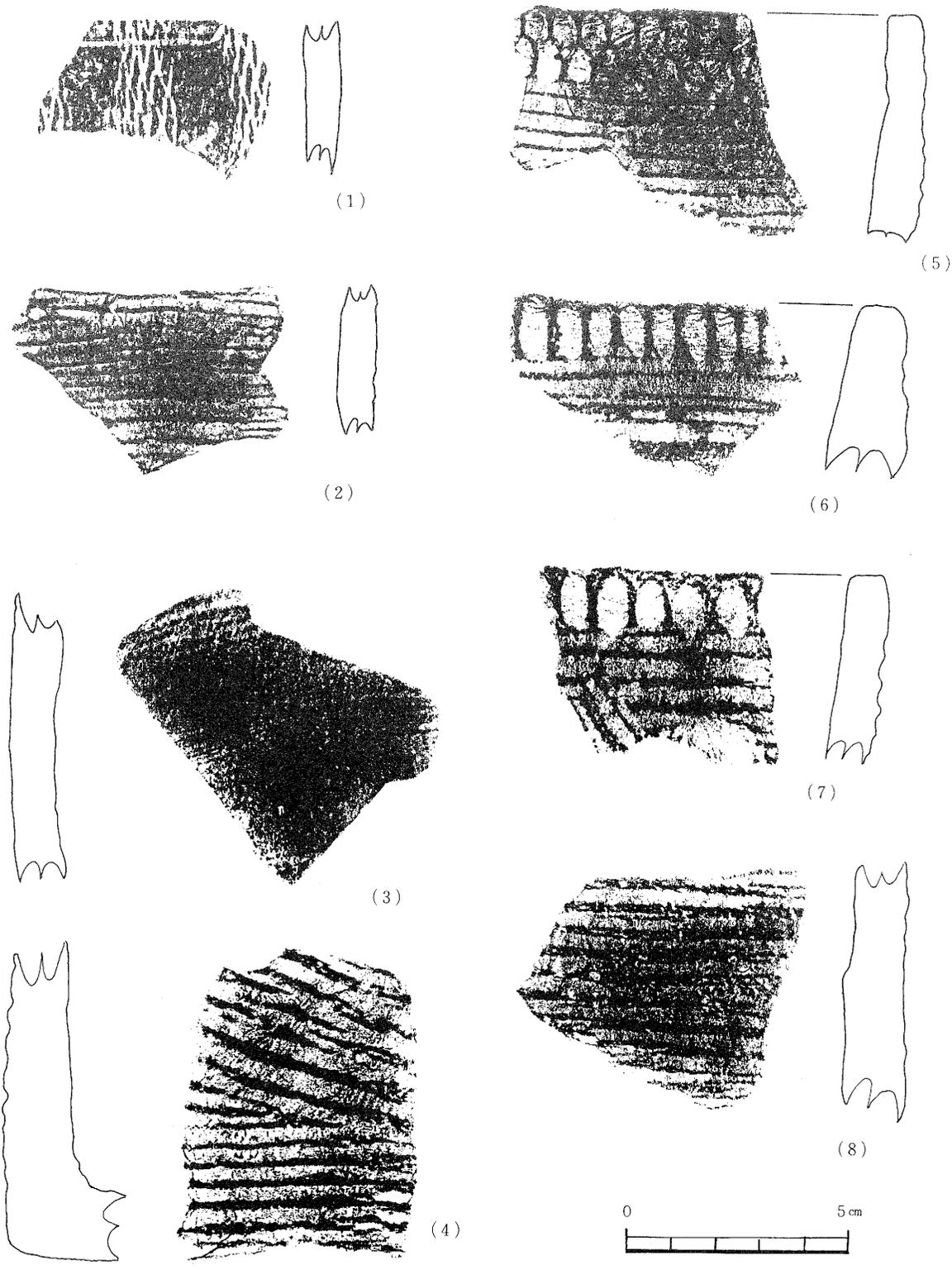


集石 2 号写真

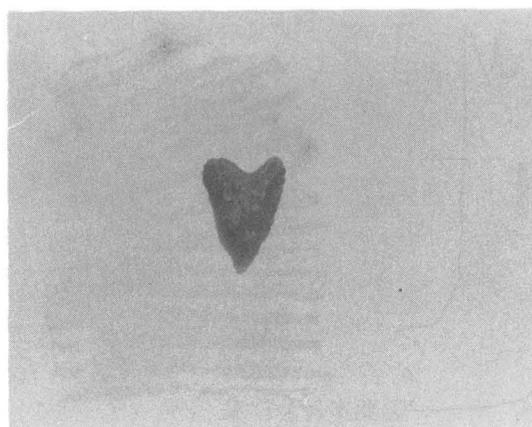
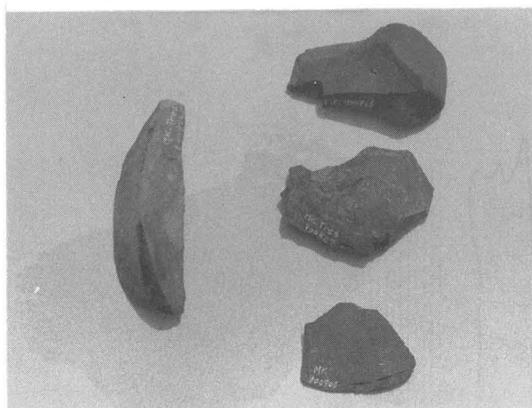
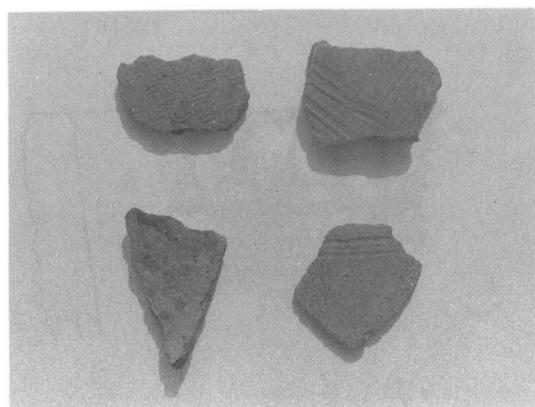
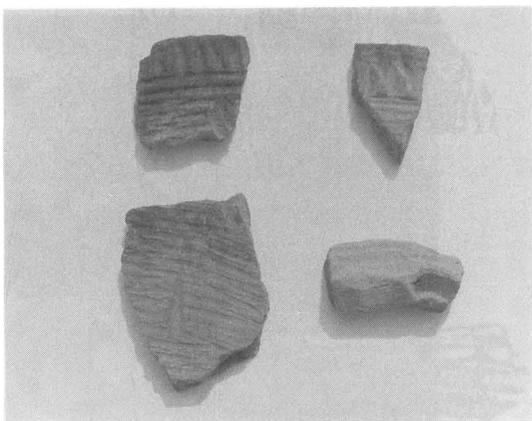
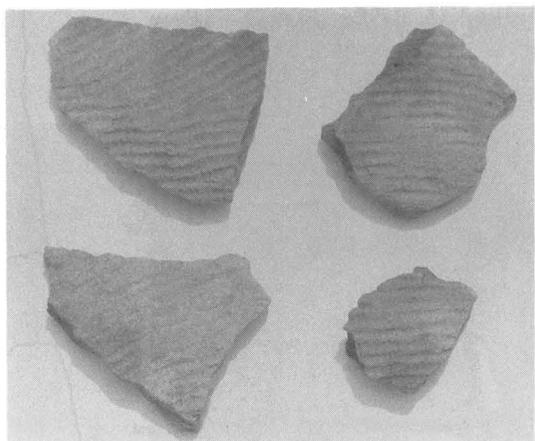


集石 2 号実測図

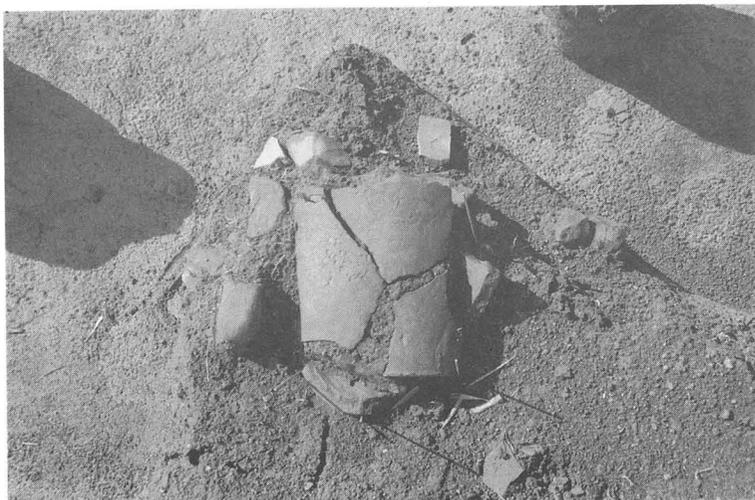
II - 3 遺構写真及び実測図



II - 4 遺物拓本



II - 5 出土遺物写真



II - 5 出土状況写真

5. まとめ

村上遺跡での遺構・遺物数はさほど多くなかったが、これは、前述したように遺跡全体の旧地形がかなり傾斜していることと関係しているものと思われる。特にアカホヤ以下では、部分的にはあるが人間が立っているのにも不適さを感じる場所もあり、長期間停泊するには困難な印象を受けた。

また、2次的なアカホヤからの遺物の出土も若干見られたことから、流れ込みの恐れもあり、問題点として考慮しなければならないところである。

以上のことなどを含んだ詳細な報告は、本報告書の中で記述することにする。

参考文献

1. 長津宗重他 1987 「猪之樋遺跡」
2. 吉本正典他 1989 「奈留地区遺跡 - 開尾遺跡・留ヶ宇戸遺跡」
3. 吉本正典 1990 「奈留地区遺跡 - 留ヶ宇戸遺跡・開尾遺跡」